個人質問

角井 英明議員

Q 紙おむつを資源化して循環型社会に進むべきでは

A 収集運搬経費等の課題があり、費用対効果の検討が必要

その他の質問

- 新ごみ処理施設の処理方式について
- 生ごみのバイオガス化について
- そこここ対話集会について

Q 紙おむつを資源化すれば、循環型社会の形成になるのでは。

A 一つの取組だと考えるが、収集運搬経費や新たな処理体制の整備等の課題があり、慎重に検討していく必要がある。

Q 浜松市では民間業者の力を借り、紙おむつから紙おむつを再生する水平リサイクルの実証実験を行っている。彦愛犬でも可能ではないか。

A 近くに再生工場がある浜松市や鹿児島県と違い、引き受ける工場があるかどうかや、ごみ収集スケジュールに、別途、紙おむつだけの分別スケジュールを組めるか等、慎重に検討すべきと考える。

小川 隆史議員

Q すべての事業において事業成果報告書を作成、公表するのか

A 事務事業ではなく、施策単位で評価し作成、公表している

その他の質問

- 公共施設等LED化事業について
- 市内自治会の危機的状況について

Q 事業ごとに、成果報告書の作成、公表は必要ではないか。

A 事業ごとではなく、施策単位での評価を行い、施策評価シートを公表している。

Q 公表されている施策評価シートには、事業費の記載がないのではないか。

A 施策評価シートには、事業費の記載はないが、事務概要書等により施策全体的な経費は公表している。

Q 予算執行額等の状況がないと、施策評価は困難ではないか。

A 施策評価の目的は、施策の見通しと改善であり、予算の記載はないが、事務の執行や予算編成、事業見直しの検討の中で、評価結果を踏まえて、予算等に反映させている。

▲彦根市総合計画前期基本計画
施策評価シート

上杉 正敏議員

Q 通学路における交通安全対策は十分にできているか

A 学校・家庭・地域・関係機関と連携し見守り強化に努める

その他の質問

・防災リーダー育成について
・軟骨伝導イヤホン導入について

Q 八坂町の駐在所から南方面の通学路の途中でグリーンベルトが無くなっているのはなぜか。
A グリーンベルトが無くなっているのは指定通学路の範囲外であるため。
Q 集合場所を移動し指定通学路になればグリーンベルトを引いてもらえるのか。
A 地元自治会から学校に申し出てもらえれば許可される。
Q 八坂町のバス乗り場より北方面で50名近くの児童が利用する通学路にグリーンベルトが引かれていないのはなぜか。
A バス停より北方面については道路の幅員が狭く路側帯を引けばグリーンベルトが引けないため。
Q グリーンベルトが引けないのであるなら児童を守る他の方法は無いのか。
A 道路に通学路のペイントや立て看板の設置等が考えられるので関係部署と連携し検討する。

▲通学路の途中でグリーンベルトが無くなっている個所

戸﨑 克司議員

Q チャチャチャひろばに子どもリユース事業「カエコト」併設の効果は

A ２つの活動が相乗効果となり、利用者の拡大が期待できる

その他の質問

・本市の各公共施設にて、正しい節電方法の共有は
・公共施設別の電気使用量･電気料金の見える化は

Q チャチャチャひろば移転に伴う利用者の利便性向上は。
A 空調設備が整ったことで季節問わず快適に利用ができ、これまで休館としていた日曜・祝日にも利用いただけるようになった。子どもの医療に関連した相談会やカフェとの連携企画など、事業者の強みを活かした特色のある取組を実施している。
Q チャチャチャひろばの今後の展開、展望は。
A 子育て家庭が安心して過ごせる居場所として、子どもの健康に関する悩み相談など、医療と子育てを切り口に地域の人々が集うひろばにしていきたいと考えている。
Q 子育て支援施設間の連携の今後は。
A 情報共有や意見交換の場を設けることと、様々な研修メニューの参加を促すことで、市内４施設の事業の充実と職員の資質向上に努めていく。

アルプラザ彦根４階「チャチャチャひろば」

子どもリユース事業「カエコト」

▲移転した子育て支援施設「チャチャチャひろば」と、併設した子どもリユース事業「カエコト」の様子

個人質問

伊藤 容子議員

Q 水道管路更新の重要性への市の認識は

A 市民生活や産業活動を維持し、漏水時の道路陥没防止等、災害に強いまちづくりに寄与する

その他の質問

- 災害時における情報伝達および避難所の地域福祉機能の維持について
- 災害に強いまちづくりと子どもたちの未来への投資に向けて

Q 老朽化対策が、現在のペースで進んだ場合に更新完了まで何年要するのか。

A 過去５年の更新率で計算すると、全ての管路の更新には150年以上要し、管路の安全性を確保できない状態となる。

Q 水道管路更新の重要性への市の認識は。

A 水道管路の更新は、市民生活や産業活動を維持するインフラであり、また漏水時の道路陥没の防止や、更新時は耐震管を使用し災害時の被害を最小限にするなど災害に強いまちづくりに寄与し重要と考える。

Q 今後10年程度を見据えた更新費用の見通しは。

A 現在、年間約７億円程度の管路更新を実施しているが、近年の資材費や労務費の上昇で、当初想定した更新が十分に進んでいない。彦根市上下水道事業審議会で策定を進める次期経営計画案では、管路の健全度の維持に年間15億円以上の更新費用が必要と試算している。

▲「水道施設の現状（2023年８月）」（R８年度第１回上下水道事業審議会　資料より）

和田 一繁議員

Q 彦根城築城420年を市長としてどのように迎えたいのか

A 様々な意見に耳を傾けながら検討したい

その他の質問

- 彦根市観光振興計画について
- 彦根市スポーツ推進計画について
- 開国記念館の活用について

Q 彦根城築城420年を市長としてどのように迎えたいのか。

A 記念事業を実施すべきという声もある一方、厳しい財政状況が続いている。築城400年祭や410年祭のような規模のイベントを無理に行う必要があるのかという声もある。様々な意見に耳を傾け費用対効果や市民の理解を十分に踏まえながら、世界遺産登録に向けた機運の醸成につながる取組を検討する。

Q 市民が企画した事業に支援を行うべきでは。

A 彦根城築城420年のイベントの実施については、現状では具体的な結論には至っていない状況であり、実施体制や事業形態も含めて検討中の段階である。イベント等を実施する場合は、市民提案型の事業についても併せて検討する。

Re-Discovery & New-Creation
国宝・彦根城築城400年祭
期間：2007年３月21日（祝）～11月25日（日）

HIKONE ONE and ONLY 築城410年祭　国宝 彦根城

▲国宝・彦根城築城400年祭・410年祭ロゴ